

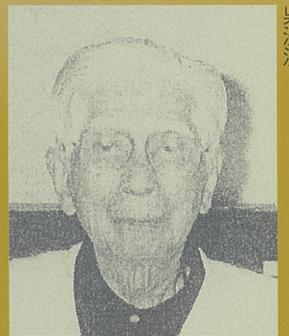
幻の資料の発掘、未公刊作品の単行本化、
入手困難な雑誌所収作品の公刊、
稀覯資料の復刻等、日本語作品のほか、
漢文雑誌・新聞から「漢文通俗小説」の
新分野も収録した画期的文学作品集。

監修 中島利郎・河原功・下村作次郎

日本統治期 台湾文学集成

〈第二期〉全10巻

呉漫流



魏清徳



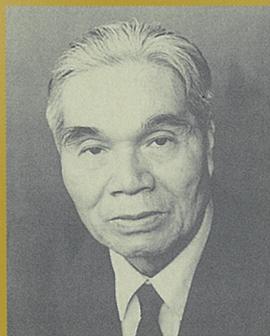
王昶雄



西川満



呉濁流



濱田隼雄



龍瑛宗



謝汝銓



綠蔭書房

原本から見えてくる

台湾文学の真の姿

岡崎郁子 (吉備国際大学教授)

原本は圧倒的な強さと存在感をもって読者に逼るものである。影印版を採用しての復刻を実現している編集者と緑蔭書房の実力には、ただただ脱帽するばかりだ。これまでの『日本統治期台湾文学』作品・資料復刻シリーズをはじめ、『日本統治期台湾文学集成』第一期に続いてこの度刊行される第二期(全一〇巻)でも、オリジナルを尊重する姿勢が貫かれていることを歓迎したい。

集成の第一期では、台湾作家と日本人作家の日本語作品を収録、純文学以外にも通俗小説、探偵小説、戯曲・脚本等、これまで等閑視されがちな分野も網羅している。集成の第二期では、日本語作品に限らず中国語作品も収録した点、有名無名の台湾作家と日本人作家の膨大な数の作品が収められている点、且つ戦前から戦後を通して日台史に登場する「呉鳳」と「サヨンの鐘」の関係資料が多方面から収集され論じられている点に大きな特徴がある。また呉濁流「胡志明」の原本復刻も嬉しい限りだ。

以上を通じて台湾文学研究にとどまらず、世界文学に新たな作品・資料を提供できる。それにしても、編集者と緑蔭書房の並々ならぬ努力から連想することは、日台史及び政治史の闇に埋もれて他にも如何ほどの文学作品や資料が陽の目を見ずに眠っているかという懸念だ。それを一つ一つ掘り起こし、日台両文学史を塗り替える発見に遭遇することがあれば、根気よく、また躊躇することなく、修正を加えていく以外に道はないであろう。



21 「台湾鉄道」作品集一

編集・解説＋作品目録
中島利郎 (岐阜聖徳学園大学教授)

収録作品

「短編 坑道」宮崎直介(一九一九年一月一日～三月一日)

「探偵小説 二將軍の壁画」福田昌夫(一九三五年二月一日～三月一日)

「弾道」河北峻雄(一九三九年一月一日～二月一日)

他九編収録

内容

一九一二年(明治四五)創刊の雑誌『台湾鉄道』が、二〇年代の終わりになって本格的に小説類の掲載を始めた。他の総督府系の雑誌とは一線を画した様々な傾向の小説が載っているのは、鉄道職員に文芸を愛したグループがあったからだ。本編は鉄道関係者の小説を収録した。



22 「台湾鉄道」作品集二

編集・解説＋作品目録
中島利郎

収録作品

「鉄道小説 K機関手の錯覚」柯設借(一九三九年六月二日)

「小説 秋夜」坂口櫻子(一九四二年二月一日)

「随筆 百聞百見記」西川満(改題「いしずゑ」、一九四四年九月三日～十一月五日)

「笑ふ清風荘」龍瑛宗(一九四五年一月)

他四九編収録

内容

四〇年代に入ると『台湾鉄道』の執筆陣の顔ぶれが一変する。西川満が『台湾縦貫鉄道』を執筆した関係で『文芸台湾』系の作家をはじめとする、所謂『台湾作家』の作品が多くなる。本編は主にそれらの作家の作品を収録した。



23 「台湾新報・青年版」作品集

編集・解説＋作品目録
中島利郎

収録作品

「光の中に」高山凡石(一九四四年七月五日～九月三日)

「呂君の結婚」龍瑛宗(一九四四年八月三日)

「遅しき群像」周金波(一九四五年一月一日～三月三日)

他三四編収録

内容

一九四四年七月～四五年二月に発表された長期連載小説、文芸、辻小説、詩等から選んだ作品三七編を収録。全作品が、今回新たに発掘された『台湾新報・青年版』(『国語新聞』『皇民新聞』の後継紙)を初出とする幻の作品群である。なお、本編は原紙の保存状態を考慮し、新組とした。

帰ってきたサヨン

星名宏修 (琉球大学教員)

あのサヨンが帰ってくる！ 呉漫沙の『莎秧的鐘—愛国小説』、呉漫沙著・春光淵訳『サヨンの鐘』、長尾和男『純情物語愛国乙女 サヨンの鐘』、村上元三『サヨンの鐘』や『国民教科書』に掲載された「サヨンの鐘」など各種の版本を、たった一冊で読むことができるようになるという。この秋刊行予定の『日本統治期台湾文学集成 第二期』の第二八巻がそれだ。

〈第一期〉の恩恵を身にしみて感じている一人として、〈第二期〉の出版は、本当に嬉しい「事件」だ。「サヨンの鐘」だけではない。サヨンと並ぶ「美談」の主役であった呉鳳に関する資料集が二巻分。さらに「奔流」以外は読む機会に恵まれなかった王昶雄の主要作品を収録した巻や、呉濁流の代表作「胡志明」を収録した巻が、それぞれ一巻ずつ用意されている。

従来、日本統治期の台湾文学は、文学雑誌に掲載された作品を中心に論じる傾向が強かった。だが、当然のことだが、それ以外の多くの新聞雑誌にも、作品は発表されていたのである。この〈第二期〉には、雑誌『台湾鉄道』や大東亜戦争最末期の『台湾新報・青年版』掲載の日本語作品や『漢文台湾日日新報』などの中国語による創作など、これまで入手が困難だった膨大な作品が収録されている。龍瑛宗・周金波・張文環・高山凡石・楊達・呂赫若などの名前と、その作品リストを見ているだけで、一刻も早く手に取りたいという、焦慮にも似た気持ちに駆りたてられる。〈第二期〉の刊行によって、日本統治期の台湾文学研究、ひいては植民地文学の研究は、大きな一歩を踏み出すチャンスを得たといえるだろう。

24 台湾漢文通俗小説集一

編集

黄美娥 (台湾・政治大学台湾文学研究所教授)
黄英哲 (愛知大学教授)

収録作品

「俠鴛鴦」李逸濤 (台湾日日新報) 一九一三年一月一日〜六月三日
「蛮花記」李逸濤 (台湾日日新報) 一九一四年二月三日〜十五年八月七日

内容

「台湾日日新報」に収録された代表的な漢文通俗小説「文言」を今回、編集復刻により初めて公刊。ここにあげた連載長篇小説「蛮花記」は漢文通俗小説としては珍しい台湾原住民の愛情、冒険の物語。

25 台湾漢文通俗小説集二

編集・解説

黄美娥・黄英哲

収録作品

「傾国恨」魏清德 (台湾日日新報) 一九一七年九月九日〜一八年三月二五日
「桃花江」呉漫沙 (風月報) 一九一七年一月〜一九一八年七月

他一五編収録

内容

「台湾日日新報」「風月報」「三六九小報」に収録された代表的な漢文通俗小説「文言・白話」を今回、編集復刻により初めて公刊。ここにあげた「傾国恨」は第二次世界大戦を描いた佳作。「桃花江」は女給、ダンサーなどの貧困からの克服を描く、新時代の男女のラブストーリー。出版時には発禁処分になされ、抗日的作品といわれる。

26 「呉鳳」関係資料集一

編集・解説

下村作次郎 (天理大学教授)

収録作品

「殺身成仁 通事呉鳳」中田直久 (一九二二年)
「霊は輝やく 義人呉鳳」三浦幸太郎 (一九三〇年)

27 「呉鳳」関係資料集二

編集・解説

下村作次郎

収録作品

「呉鳳」呉鳳廟事務所編 (一九三五年)
「呉鳳」呉鳳廟改築委員会 (一九三一年)

「伝説小説 呉鳳」長尾和男 (皇道精神研究普及会、一九四三年)

他三編収録

内容 (26・27巻)

「呉鳳」の話は、戦前の日本の教科書ではよく知られた台湾の物語であった。いま、それを知る日本人は少ないが、台湾では一九八七年に原住民の抗議により、国民小学校の教科書から削除されるまで誰でも知っていた。か





『日本統治期台湾文学集成』賛

松永正義 (一橋大学言語社会研究科教員)

七〇年代に私が台湾文学研究を始めた頃は、作品を探し出して読むこと自体がひと苦労だった。台湾で出版されたものの多くが、日本の図書館にはなく、台湾の図書館でも未整理のまま放置されていた。その後、日本時代の文芸雑誌を集めて復刻した『新文学雑誌叢刊』が台湾で刊行されて、状況はだいぶ改善されたが、それでも緑蔭書房から刊行された『日本統治期台湾文学』の復刻シリーズを見れば、前記『新文学雑誌叢刊』だけでは全く不十分なことはよくわかる。それだけに、緑蔭書房の仕事は、台湾文学研究にとって大変大きな意味をもつものだ。

九〇年代半ばくらいからだろうか、台湾意識の高まりとともに、台湾文学研究はそれまでの日陰の学問から、一転して顕学となり、資料の発掘、整理、刊行が飛躍的に進んだ。資料の発掘、整理は本家の手で行われ、外国人研究者はその成果を二次利用するという、本来の姿に向かいつつある。だが今度の『日本統治期台湾文学集成』第二期を見ると、まだ日本での研究の方が上手に行く部分もあるように見える。それはひとえに三人の監修者の力量によるもので、中島さんの編集部分は、よくこんなものにまで目が届いていると驚くものだし、下村さんの部分は多年の研究活動の成果を示すもの、河原さんの集めた王昶雄や呉濁流の小説は、日本語の原文はほとんどここでしか読めないものだ。また黄美娥・黄英哲さんの部分はこれまで殆ど顧みられてこなかった「漢文」による文学で、大きな問題提起になるだろう。こうした仕事をみていると、まだまだ日本でもできることはあるのだと意を強くさせられる。

つては学芸会で繰りかえし上演され原住民族を「汚名化(名前を汚すこと)」してきた物語だが、その源は日本統治時代にあることが本編で明らかになる。

28 「サヨンの鐘」関係資料集

編集・解説
下村作次郎

収録作品

- 『莎秧の鐘 愛国小説』 吳漫沙 (南方新聞社、一九四三年)
- 『サヨンの鐘』 吳漫沙・春光淵訳 (東亜出版社、一九四三年)
- 『愛情物語愛国乙女 サヨンの鐘』 長尾和男 (皇道精神研究普及会、一九四三年)

他四編

内容
『サヨンの鐘』の誕生は、一九三七年の日中戦争が始まり戦時体制下の在台「内地人」にも召集令状が来るようになった時代背景抜きには語れない。物語の主人公タイヤルの少女サヨン・ハヨンの水難事故と戦時体制が重なり、彼女の預かり知らぬところで物語が作られ、「吳鳳」と同じ神格化の道を辿る。河原功先生の貴重な文献が加わり、研究者待望の資料集となった。



29 王昶雄作品集

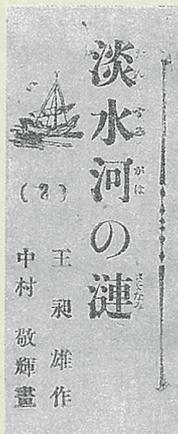
編集・解説
河原功 (成蹊高等学校教諭)

収録作品

- 『淡水河の漣』 (台湾新民報、一九三九年)
- 『梨園の秋』 (台湾新民報、一九三六年)
- 『奔流』 (台湾文学、一九四三年)
- 『鏡』 (未発表)

他二編

内容
近年発見された中篇小说「淡水河の漣」をはじめ、「梨園の秋」や未発表の「鏡」等に、既刊『日本統治期台湾文学』台湾人作家作品集に収載した出世作「奔流」も再録して、王の全小説を収録。その他、随筆・詩・評論等、王昶雄のほとんどの作品を一冊に収め、王研究の必須資料とした。



30 吳濁流作品集

編集・解説
河原功

収録作品

- 『胡志明』 (一九四六〜四八年)
- 『ボツダム科長』 (一九四八年)

内容

両作品とも戦後、開放初期の日本語が禁止になる前の時期に台湾で出版されたもので、今回初めて原本が公刊される。『胡志明』は、日本統治末期までの台湾社会を克明に描いた自伝的小説。日本では「アジアの孤児」という題名でよく知られているが、それは「胡志明」を約六〇％に縮めたもの。『ボツダム科長』は戦後初期の台湾に巣食う「御用紳士」を風刺した作品で、『胡志明』に次ぐ呉の主要作品である。



監修 中島利郎・河原功・下村作次郎

日本統治期台湾文学集成

第一期〈全20卷〉好評発売中！

● 第一期刊行概要〈編集復刻版〉

書名	編集	解説	ページ数	本体価格	ISBN4-
1 台湾長編小説集一	下村作次郎	下村作次郎	530頁	9800円	89774-035-5
2 台湾長編小説集二	中島利郎	柳書琴	380頁	8800円	89774-036-3
3 台湾長編小説集三	河原功	河原功	540頁	9800円	89774-037-1
4 台湾短編小説集	中島利郎	中島利郎	450頁	9600円	89774-038-X
5 台湾純文学集一	星名宏修	星名宏修	450頁	9600円	89774-040-1
6 台湾純文学集二	星名中島	星名宏修	530頁	9800円	89774-041-X
7 台湾通俗文学集一	中島利郎	中島利郎	370頁	8800円	89774-042-8
8 台湾通俗文学集二	中島利郎	中島利郎	370頁	8800円	89774-043-6
9 台湾探偵小説集	中島利郎	中島利郎	390頁	9000円	89774-044-4
10 台湾戯曲・脚本集一	河原功	河原功	560頁	9800円	89774-046-0
11 台湾戯曲・脚本集二	河原功	河原功	440頁	9400円	89774-047-9
12 台湾戯曲・脚本集三	河原功	河原功	530頁	9800円	89774-048-7
13 台湾戯曲・脚本集四	中島利郎	中島利郎	410頁	9400円	89774-049-5
14 台湾戯曲・脚本集五	中島利郎	中島利郎	510頁	9600円	89774-050-9
15 台湾随筆集一	河原功	河原功	380頁	8600円	89774-052-5
16 台湾随筆集二	中島利郎	中島利郎	400頁	9400円	89774-053-3
17 台湾随筆集三	中島利郎	中島利郎	580頁	10000円	89774-054-1
18 台湾詩集	河原功	河原功	580頁	10000円	89774-055-X
19 葉歩月作品集一	下村作次郎	下村作次郎	330頁	8000円	89774-057-6
20 葉歩月作品集二	下村作次郎	下村作次郎	600頁	11000円	89774-058-4

第一回配本
1~4巻 揃本体 38,000円
ISBN4-89774-034-7 C3393

第二回配本
5~9巻 揃本体 46,000円
ISBN4-89774-039-8 C3393

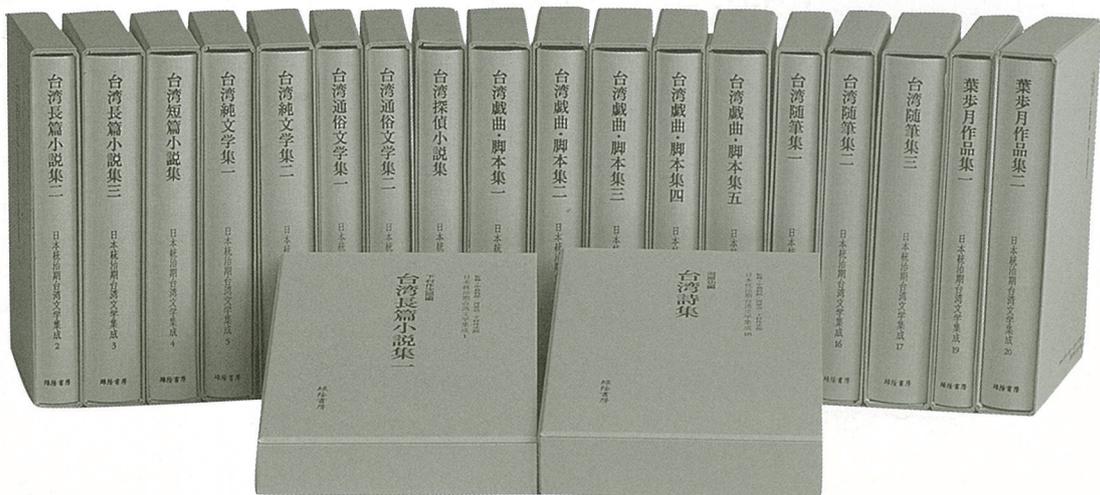
第三回配本
10~14巻 揃本体 48,000円
ISBN4-89774-045-2 C3393

第四回配本
15~18巻 揃本体 38,000円
ISBN4-89774-051-7 C3393

第五回配本
19~20巻 揃本体 19,000円
ISBN4-89774-056-8 C3393

● 第一期(全20巻)揃本体価格189,000円+税
● 体裁 四六判・上製クロス装・ケース入り

ISBN4-89774-033-9 C3393



監修 中島利郎・河原功・下村作次郎

日本統治期

台湾文学集成

〈第二期〉全10巻

■網羅的に研究資料として提供することを試みた第一期に引き続き、この度刊行する第二期は、新資料の発掘、未刊作品の公開、入手困難な雑誌収載作品を公刊する。

〈第一期〉の刊行によって、日本統治期の台湾文学研究、ひいては植民地文学の研究は、更に大きな一歩を踏み出すチャンスを得たといえるだろう。

●第二期刊行概要〈編集復刻版〉

書名	編集	解説	ページ数	本体価格	ISBN4
「台湾鉄道」作品集一	中島利郎	中島利郎	400頁	9400円	*1-SBN4-89774-063-0
「台湾鉄道」作品集二	中島利郎	中島利郎	400頁	9400円	89774-064-9
「台湾新報」青年版作品集	中島利郎	中島利郎	540頁	10000円	89774-065-7
台湾漢文通俗小説集一	黄美娥/黄英哲	黄美娥/黄英哲	500頁	9800円	89774-066-5
台湾漢文通俗小説集二	黄美娥/黄英哲	黄美娥/黄英哲	470頁	8800円	89774-067-3
「呉鳳」関係資料集一	下村作次郎	下村作次郎	440頁	9600円	*89774-069-0
「呉鳳」関係資料集二	下村作次郎	下村作次郎	360頁	9000円	*89774-070-6
「サシ」の鐘関係資料集	下村作次郎	下村作次郎	570頁	10000円	*89774-071-3
王昶雄作品集	河原功	河原功	460頁	9600円	*89774-072-0
呉濁流作品集	河原功	河原功	500頁	9800円	*89774-073-7

第一回配本(06年11月刊)
21〜25巻 揃本体 48,000円
ISBN4-89774-062-2 C3393

第二回配本(07年4月刊)
26〜30巻 揃本体 48,000円
ISBN978-4-89774-068-3 C3393



緑蔭書房

〒173-0004 東京都板橋区板橋1-13-1 ☎03(3579)5444 (定価は本体価格+税)

特約店

〈緑蔭書房刊〉

監修=中島利郎・河原功・下村作次郎

日本統治期台湾文学集成

第二期 〈全10巻〉

ISBN4-89774-061-4 C3393

全巻購入致します

ご購入先

お名前

ご住所

ご連絡先

購入申込書

●第一期(全10巻)揃本体価格96,000円+税 ISBN4-89774-061-4 C3393
●体裁 四六判・上製クロス装・ケース入り